

毎年々々訪ねたい「ふるさとみやざき」

宮崎県にはまだまだ生かし切っていない素晴らしい魅力がある。

観光とは、風景や文化に触れることである。それらは自然と人が織りなしながら創られていくものである。さらなる都市農村交流が望まれる今日、旅人と住民と自然的文化的環境のよりよい関係を創り出していこう。そのような場所を、県内各地に創造していこう。そこで、各地のさりげない特色、伝統、文化、遺跡などを活かすことによる魅力創造「宮崎県の潜在的な観光資源の掘り起こしと魅力の向上」をテーマとして以下を提案する。

・基本コンセプト

南北に伸びた日向灘海岸ベルト、阿蘇、祖母傾山から南下する九州山地山岳地帯、霧島火山帯ベルト、延岡から宮崎までの平野ベルト、都市連担地域ベルトなど、大まかなゾーニングのもとに美しさを演出する。

全国から人びとが訪れる観光県づくりをしよう。それには全国に光るほどの一等星の実現を図らなければならないが、全県域・重層的にやるのが効果的だ。県、市町村、民間、個人、一切の人的な資源＝知恵と力を集結することが大切だ。ただし、お金はかからないというメッセージがことさら大切だ。

・「花と緑の回廊計画」

昭和40年代に、宮崎県は沿道修景美化条例を制定され、その一環として、「香りのする道づくり」を提案されたように記憶する。新婚のメッカだったから美化条例が活きたことであろうが、むしろ今からこそ活かすべきだ。

そのために、幹線道路から両側何十メートル幅を、面的に、統一的なコンセプトで整備する。四季折々の花を植えて香りもするように。自生する小昆虫、小魚らも一緒になって心地よい風景風物を創出する。エノキには玉虫が棲むし、エノキが清冽な水辺にあればオオムラサキが産卵、羽化するように。清流があれば夜にはホタルが舞うように。鈴虫の鳴く台地（今や一方的に失われている）があれば農薬の害から保護をする。よくみかけるチョウやトンボの生息地には小さな看板で説明をする。民家は、あたかも萩の茶屋の庭のように、彼らの庭先を開放して観光客の散策を許す。錦鯉が泳いでいる民家もあれば盆栽に励む家もある。カイコをつむぐおばあさんもいる。何気なく覗いて発見するそれらは旅人にはとても新鮮で楽しい。

その辺をぶらぶら歩けば何とはなしに気分がいい。そんな開放的な雰囲気場にしよう。

何よりも大切なことは、住民主体で整備することであって、オレがオレが主義のけばけばしい建物を建てたりすることをひかえ、すべての家、食堂、店舗などが調和のとれた雰囲気にあることが大切である。これまでにあった生活の知恵を活かせば小さくとも観光資源となりえるのである。

ちょっとした仕かけによって引き立つものもある。たとえば、高台には、遠望が利く物見の塔を建て、高千穂の峰が見える、といった具合である。域内では車の速度は20キロ以下とすることや、広ければ貸し自転車もいいたろう。河原近くには、オートキャンプ場を設置する。本流に沿って虹鱒の釣堀（石積みの段々畑風にする）もいいたろう。小鳥が鳴声を競う特別区があってもよい。

・「新婚のメッカの、新しい形の復元」

かつて宮崎県は、新婚のメッカとしてにぎわった。青春の希望に胸をふくらませた彼らは、今や銀婚、金婚を迎えようとしている。子供やお孫さんによる彼らの銀婚、金婚のお祝をなつかしい宮崎にて行う。また、結婚という意義の再確認は、少子化傾向著しい今、とても重要だ。そこで、テーマは、“ブライダルメッカ宮崎”

ブライダルロード＝金婚の道、銀婚の道、シルバー婚の道、新婚の道…。新婚八十八箇所めぐり＝神武の道・アマテラス・天岩戸・陰陽石・照葉樹林帯（生命のメッカ）・日南海岸巡り。そういった命の再生産に関連する場所が宮崎県には沢山あり、それらを巧くつないでいく。それを観光コースとして旅をしていただく。

・「わんぱく子どもの里づくり」 おじいちゃんのふるさと探訪

義務教育を終えたほとんどの若人がふるさとを後にした高度経済成長期。しかし、大都市住民となった彼らの中には、ふるさとをなつかしみ、また、子どもや孫たちには、お父さん（今やおじいちゃん）がしたようなふるさとの遊びをさせてみたいと考えている。

そこで、「おじいちゃんのふるさと探訪」をテーマに滞留型居住地を提案する。受け皿整備が「わんぱく子どもの里づくり」であって、「都市・農村交流」人口の拡大策でもある。

戦略＝高度成長以前の「むら」の復元 往時の文化を体験させる。

戦術＝滞留型・安宿の提供＝B&B。楽しみの提供＝釣り・泳ぎ・読書・散策 etc.自然からの学びのシステム 教育活動との連携（人材確保 雇用）

当然、歴史と伝統・文化の伝承者がいなければならない。今のうちから人材、ノウハウの保存を確実にしておくことだ。特に、昔からの遊び方の伝承が大切だ。村の遊びを伝承し、子どもたちに教えられる“マイスター”の登録・活用制度も有効だ。

杉、ヒノキ等県産材簡易住宅を建設しよう。地域全体に亘る公共事業が発生するが、ローカルルール、特に、地域通貨の導入によればかなり助かるだろう。（訪問者の労働を期待するのである。日銀券がなくとも、その地を訪れた人で働きながらゆっくりとくつろげる、西米良村で導入しているワーキングホリディ制度を活用する。その際、むら、まちだけに通用する地域通貨で宿泊も食事もできるようにする。地域通貨は村役場が発行する。そのため、旅人用の仕事を、村役場に行けば、見つかるようにしておけばよい。西米良村では、ユズの皮むきが多いが、川の掃除とか森の手入れなどいくらでもあろう）

・「美々津～蒲江海岸・海の道」整備

海岸から県土を楽しむ視点はいかが？

【この地域は高速道をこのように活用したい】という、東九州道建設を後押しする計画と行動の一環でもある。かつて伯延（佐伯・延岡）経済圏構想というのが論じられた。宮崎県の美々津から大分県の蒲江海岸を、津々浦々を繋いだ「海の道」で二、三泊の旅をする。つまり、漁港を活用した拠点を作り、釣り・景色・食べ物・泳ぎ・サーフィン・プレジャーボートなどを、海側から旅人に満喫していただく。

往路は「海の道」で南下し、帰路は高速道路で北上する。車は、代行運転で出発地にて迎えるようにする。つまり、陸海の循環ルート形成が必要だ。県境サミットを創設して具体案を練る。

・歴史遺産を活用した里作り

推奨されるその典型的な提案は、優秀賞に選ばれた「古墳を活かしたまちづくり 南の古墳の里」(平成13年度応募作品「山本美紗代 南九州大学造園学科 学生(当時)」)であろう。ぜひ参考にされ、また、実現の議論をおねがいしたいところだ。

・いかに創るか？

主体は、住民と役場・企業である。場所を決める。計画には旅人を参加させよう。住民が気づかないところに旅人にとっての魅力が潜んでいるのだから、旅人も参加するシステムを創るべきだ。それには、「道の駅」のような旅人との交流センターがあることが望ましい。一家庭で一つ魅力を発見して提供していただく、というのはどうだろう。壁にかける一輪の花でもよい。街区が協力して生垣にするのもよい。路傍に花を飾るというボランティアでもよい。

公募して、正式にお願いする。表彰するものよいだろう。商品であれば、新しいブランドに変身するかもしれない。それら、地産の売り場は共同組合方式で、住民全体の利益となるようにする。地域の造園会社も参加するが普請的なしごととなる。最も大切なことは、住民が住みたい地域空間を創造する過程が、すなわち観光地化の軌跡と一致することである。

また、全国に光るほどの一等星とする、全県域・重層的な取組みであってほしい。

以上のイメージから次の提案を継続的に検討・実践することはいかがだろうか。

・進め方の提案

1. 発展のスパイラル形成

地場の建設コンサルタントが、行政（土木部 etc.）大学等（産官学）に働きかけて、「ふるさと交流会」を作ってワイワイガヤガヤ討議する。とりあえず「民」だけの出発もある。

- 新たな開発理念の打ち出し 県民合意 核となる運動体 事業のメニュー 展開期

- 理念の打ち出し = トップリーダーの提示型、県民自発型、ボランティア提案型（交流会提案 マスコミ 県民 交流化へフィードバック 再提案）
- 県民合意 = 宮崎県づくりの夢・アイデア募集事業 = 生活者とのコミュニケーション 交流会との交流・連携・意志の形成
- 展開 = 市町村への波及と参加
- 企画・教育・商工労働・農林等、すべてのセクターの連携
- 助成制度等の誕生と事業の発生 社会資本整備と連動

2. お金をかけない手法の開発

長崎の「さるく博」はいい見本だ。お金をかけない地域おこしの手法を開発すべきだ。世界には歴史的にも多少の事例が存在する。（たとえば、1935年ごろ、オーストリアのヴェルグルでは、溢れていた村の失業者村に、村に必要な作業をさせて労働証明書を発行し、地域の通貨並みに流通させた）参考にしよう。

3. 国レベルなど各層の協働化・支援

民だけでも公共だけでも無理で、両者協働体制がどこまで可能か、それが鍵になるだろう。国の支援も大切だ。良質の提案には国も支援することになっているし、所得税の一部を大都市居住者から、出身地のふるさとに振り向ける制度（たとえば、故郷寄付金控除。福井県知事、日経新聞 06.10.20）も提案されている。何よりも、よだきいがよ、の日向魂をこの際返上して、元気一杯のふるさとづくりにまい進していただきたいと願っている。

（なお、この寄稿は、これまで提案された「夢アイデア」、特に、宮崎県関連のそれらを結び付けて、全体的な観光県づくりのイメージを創り上げてみたもので、「夢アイデア企画」事業の活用事例となれば幸いです。）